

## 結果報告 県代表として優勝を目指す 全日本小学生相撲優勝大会東北ブロック予選会準優勝

令和3年度JOCジュニアオリンピックカップ第34回全日本小学校相撲優勝大会東北ブロック予選会で準優勝に輝いた成田虎六久さん（合川小5年）が市役所を訪れ、津谷市長へ準優勝報告をしました。

成田さんは8月15日に行われた同大会5年生の部に出場し、持ち味の「スピード感と押し相撲」を発揮して見事準優勝を収めました。この大会で北秋田市の選手が全国大会へ出場するのは、13年ぶりとなります。

津谷市長は「これからさらに素晴らしい選手になれるように、練習を頑張ってもらいたい」などと激励しました。



## 活性化 ワクワクする未来を描こう きたあきたこどもサミット

令和3年度きたあきたこどもサミットが、8月21日に市民ふれあいプラザコムコムで開催されました。

今回は「さらに☆きたあきた～ワクワクする未来を描こう～」をテーマに市内小・中学校の代表者16人が参加しました。

佐藤教育長は「皆さんの手でこの地域を楽しく住みよい地域にできるように話し合ってもらい、たくさんのアイデアが生まれることを期待している」などとあいさつしました。

グループ協議は、メンバーの入れ替えをしながら行い、地域を活性化するアイデアを紹介した後に、感想や質問を伝え合いました。



## 開所式 救命率の向上と住民の安心のため 浦田地区AED救命ステーション開所式

浦田地区「AED救命ステーション」開所式が、9月12日に浦田交流センターで行われました。

「AED救命ステーション」とは、その場に居合わせた方がAEDを使いやすい環境を整備する事業であり、あわせて救命講習等を受けた住民が救急隊が到着するまで応急手当を行う「ファーストレスポnder体制」も進めています。

開所式では、ファーストレスポnder隊員への任命書交付、奥田賢一自治会長、長岐消防長からのあいさつ、その後AEDのデモンストレーションがあり、最後に北秋田市民病院循環器内科診療部長の佐藤誠医師による講演がありました。



## 流況調査 小阿仁川水系の防災力向上のため 令和3年度小阿仁川流況調査

小阿仁川水系対策委員会（佐藤真二委員長）などによる小阿仁川流況調査が、8月26日に北秋田市と上小阿仁村で実施されました。

北秋田市合川地区を流れる小阿仁川では、近年の豪雨等による河川の増水被害等を受け、防災力向上と清流復元などの活動が必要として毎年調査が行われています。

市からは同委員会副委員長の堀部議員、同委員の津谷市長、黒澤議長、虻川議員、長崎議員が出席しました。

流況調査は、事務局から概要等の説明のあとに始められ、北秋田市管轄では鎌ノ沢橋と落合橋で調査が行われました。



## 地域行事 無観客・ライブ配信で開催 第49回合川まつ火・第40回合川ふるさとまつり

第49回合川まつ火・第40回合川ふるさとまつりが、8月14日に合川橋周辺で行われました。

今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため規模を縮小し、無観客でまつ火と踊りの様子をカメラやドローンで撮影し、インターネット配信する形で開催されました。

点灯式では金森勝三実行委員長と来賓である津谷市長があいさつしました。読経と関係者による焼香のあと、合川中学校と合川小学校6年生の男子生徒によって火が灯され、合川橋では合川中学校と合川小学校6年生の女子生徒、日舞藤蔭流合川風扇会の方々による合川通り踊りが披露されました。



## 定例会 県全体の発展を誓い合う会に 第177回秋田県市長会定例会

第177回秋田県市長会定例会（穂積志会長）が、8月19日に市民ふれあいプラザコムコムで開催されました。

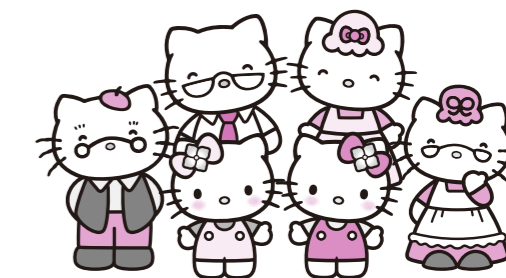
定例会には、県内13市長のほか、来賓として黒澤彦彦北秋田市議会議長、秋田県企画振興部市町村課長などが出席し、各議案や今後の活動計画などを審議しました。

津谷市長は「この市長会でよりよい議論がなされ、秋田県全体の発展を誓い合う会であってほしい」などとあいさつしました。

定例会終了後は、世界文化遺産登録となった伊勢堂岱遺跡とガイダンス施設の伊勢堂岱縄文館を視察しました。



市内のいろいろな出来事を紹介します



## 恒久平和 平和の尊さを語り継ぐ 令和3年度北秋田市戦没者追悼式

北秋田市戦没者追悼式が、8月17日に文化会館で行われ、戦没者の遺族や関係者が黙とうや献花を行いました。

戦没者追悼式は、第二次世界大戦で亡くなられた市出身者を追悼し、恒久平和を祈念するために行われており、市出身の戦没者は約1700人とされています。

式典では、津谷市長が「戦争の悲惨さと平和の尊さを風化させることなく語り継ぎ、希望に満ち溢れ、健康で心豊かな社会を永遠に築いていくため全力を尽くすことを誓い申し上げる」などと式辞を述べ、式の最後には遺族代表や関係者が献花を行い、戦没者の冥福を祈りました。

